

掛川茶「おいしい」

米ユージン市の児童ら訪問

掛川市の姉妹都市、米オレゴン州ユージン市の児童生徒と保護者ら14人が23日、掛川市を訪れ、日坂小学校の5、6年生28人と文化交流をした。コロナ禍を経て4年ぶりの訪問再開。市内の一般家庭にホームステイしながら25日午前まで滞在する。

(中野吉洋)



ユージン市の児童生徒(左側)を掛川茶でもてなす5年生＝掛川市の日坂小で

日坂小で文化交流楽しむ

ユージン市の公立小学校に相当する「友人学園」は、日本語教育に力を入れ、十二歳前後の児童や保護者らが一九九二年から掛川市を訪れている。今回は中学年代が多く、二〇二〇年に中止を余儀なくされたメンバーが、念願の掛川訪問を果たしたという。

日坂小は全校児童六十六人で歓迎会を開き、五、六年生は給食・昼休みも一緒に過ごした。午後からは日本文化体験会を開き、五年生は「夏祭り」をテーマに

花火映像を流しつつ、けん玉、お手玉、お茶の入れ方の体験コーナーを設けた。掛川茶でもてなす役を務め、タブレット端末を駆使して「熱いので気をつけて」「味はどうですか?」などと英会話にも挑戦した鈴木翼君は「英語を話すのは新鮮。気持ちで伝わった」と感想を述べた。学園の児童生徒も「お茶がおいしい」「ちょっとだけ苦いかな」と、それぞれの思いを流ちょうな日本語で伝えた。